

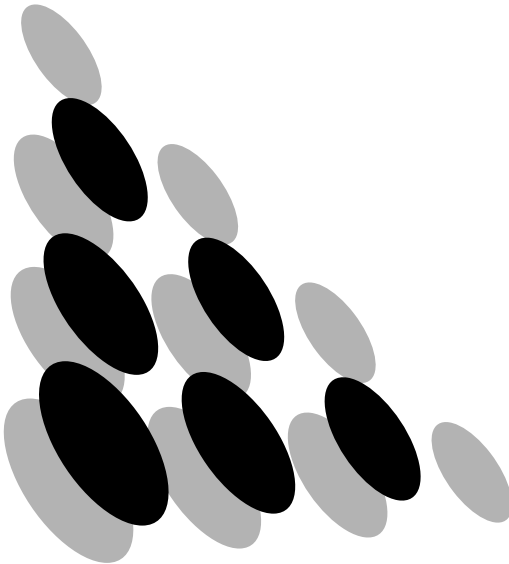
B1FY-3231-01

FUJITSU FM SERIES PERSONAL COMPUTER

FMシリーズ

3.5インチ光磁気ディスクユニット(FMPD-241)

取扱説明書



FUJITSU

はじめに

このたびは、FMシリーズ用3.5インチ光磁気ディスクユニット(FMPD-241)をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

本書は、3.5インチ光磁気ディスクユニット(以降、本装置)をご使用になれる方に、本装置の正しい操作および取り扱いかたをご理解いただくために書かれています。

万一不備な点がございましたら、おそれいりますが、お買い求めの販売店または最寄りの弊社パーソナルエコーセンターまでお申し付けください。

1998年3月

安全にお使いいただくために

本書には、本装置を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。

本装置をお使いになる前に、本書を熟読してください。特に、本書の冒頭の「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解された上で本装置をお使いください。

また、本書は、本装置の使用中にいつでも参照できるよう大切に保管してください。

安全上のご注意

本装置を安全にお使いいただくために、以降の記述内容を必ずお守りください。

本書では、いろいろな絵表示をしています。これは本装置を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解の上、お読みください。



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使用しています。

感電



で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容（左図の場合は感電注意）が示されています。

分解



で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が示されています。

プラグ



で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が示されています。

⚠ 警告

感電



必ず電源を接続する前にアース接続をしてください。
アース接続ができない場合は、販売店または弊社パーソナルエコーセンターにご相談ください。
アース接続しないで使用すると、万一漏電した場合に、感電・火災の原因となります。

窒息



梱包に使用しているビニール袋はお子様が目に入れたり、かぶって遊んだりしないよう、ご注意ください。
窒息の原因となります。

誤飲



手動イジェクト治具は、小さなお子様が目や口に入れて飲むことがないように、小さなお子様の手の届かないところに保管してください。
万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

感電



万一、本装置から発熱や煙、異臭や異音がするなどの異常が発生した場合は、ただちに本装置の電源スイッチを切り、その後必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
煙が消えるのを確認して、販売店または弊社パーソナルエコーセンターに修理をご依頼ください。お客様自身による修理は危険ですから絶対におやめください。
異常状態のまま使用すると、感電・火災の原因となります。

感電



異物（水・金属片・液体など）が本装置の内部に入った場合は、ただちに本装置の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
その後、販売店または弊社パーソナルエコーセンターにご連絡ください。
そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

感電



本装置を落としたり、カバーなどを破損した場合は、本装置の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
その後、販売店または弊社パーソナルエコーセンターにご連絡ください。
そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。

感電



本装置の上または近くに「花びん・植木鉢・コップ」などの水が入った容器、金属物を置かないでください。
感電・火災の原因となります。

感電



台所など湿気・ほこり・油煙の多い場所、通気性の悪い場所、火気のある場所に置かないでください。
故障・感電・火災の原因となります。

感電



風呂場、シャワー室などの水場で使用しないでください。
感電・火災の原因となります。

感電



表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。
また、タコ足配線をしないでください。
感電・火災の原因となります。

感電



近くで雷が起きた時は、電源コードをコンセントから抜いてください。
そのまま使用すると、雷によっては装置を破壊し、感電・火災の原因となります。

感電



付属の電源コード以外は使用しないでください。
感電・火災の原因となります。

感電



本装置に水をかけたり、濡らしたりしないでください。
感電・火災の原因となります。

感電



濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
感電の原因となります。

感電



電源コードを傷つけたり、加工したりしないでください。
重いものを載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、加熱したりすると電源コードを傷め、感電・火災の原因となります。

感電



電源コードや電源プラグが傷んだり、コンセントの差し込み口がゆるい状態では使用しないでください。
そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。
修理は販売店または弊社パーソナルエコーセンターにご依頼ください。



発火

電源プラグの金属部分、およびその周辺にほこりが付着している場合は、乾いた布でよく拭いてください。
そのまま使用すると、火災の原因となります。



感電

開口部（通風孔など）から内部に金属類や燃えやすいものなどの異物を差し込んだり、落としたりしないでください。
感電・火災の原因となります。



感電

本装置のカバーは、取りはずさないでください。
内部の点検、修理は販売店または弊社パーソナルエコーセンターにご依頼ください。
内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。



感電

本装置をお客様自身で改造しないでください。
感電・火災の原因となります。

⚠️ 注意



発火

本装置の開口部（通風孔など）をふさがないでください。
通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。



けが

本装置の上に重いものを置かないでください。また、衝撃を与えないでください。
バランスが崩れて倒れたり、落下したりしてけがの原因となることがあります。



けが

振動の激しい場所や傾いた場所など、不安定な場所に置かないでください。
落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。



発火

直射日光の当たる場所や炎天下の車内など、高温になる場所に長時間放置しないでください。
高熱によってカバーなどが加熱・変形・溶解する原因となったり、本装置内部が高温になり、火災の原因となることがあります。



感電

電源プラグを抜くときは電源コードを引っ張らず、必ず電源プラグを持って抜いてください。

電源コードを引っ張ると、電源コードの芯線が露出したり断線したりして、感電・火災の原因となることがあります。



発火

電源プラグは、コンセントの奥まで確実に差し込んでください。

火災・故障の原因となります。



発火

使用中の装置は布などでおおったり、包んだりしないでください。

熱がこもり、火災の原因となることがあります。



発火

電源コードを束ねて使用しないでください。

発熱して、火災の原因となることがあります。



感電

本装置を移動する場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。また、接続ケーブルなどもはずしてください。

作業は足元に十分注意して行ってください。

電源コードが傷つき、感電・火災の原因となったり、装置が落ちたり倒れたりしてけがの原因となることがあります。



発火

長時間装置を使用しないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

火災・故障の原因となることがあります。

本装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づく第二種情報技術装置です。本装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

RINGOWINIは、富士通株式会社の商標です。

MS、MS-DOS、Windows NTは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

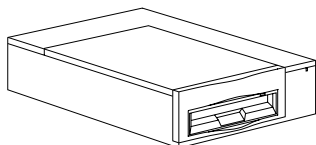
Macintoshは、アップルコンピュータ社の商標です。

会社名および製品名は各社の商標または登録商標です。

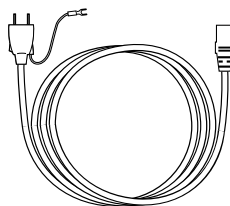
All Rights Reserved, Copyright 富士通株式会社 1998

梱包物を確認してください

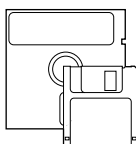
ご使用いただく前に、次のものが梱包されていることをお確かめください。



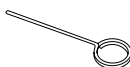
3.5インチ光磁気ディスクユニット



電源コード



3.5インチ光磁気ディスク互換媒体ドライバ
3.5インチフロッピーディスク 1枚
5インチフロッピーディスク 1枚



手動イジェクト治具



SCSI MO 640MB 媒体対応デバイスドライバ
3.5インチフロッピーディスク 2枚

取扱説明書(本書)
修理サービス網一覧表
ユーザ登録カード
保証書



ポイント

保証書は必要な事項が書かれているか、ご確認ください。お買い上げ時に正しく記載されていない場合は、保証書が無効となり無償保証を受けられないことがありますので、十分にご注意ください。記載内容が不十分でしたら、速やかに販売店にお問い合わせください。

保証書は大切に保管しておいてください。

目次

第1章 概要	1
説明書の使いかた	1
本装置について	2
特長	2
使用できるディスク	2
システム構成	3
各部の名称と働き	4
前面	4
後面	5
第2章 準備	6
接続のしかた	6
ドライブ番号の設定	8
DIPスイッチの設定	9
デバイスドライバについて	10
添付ディスクについて	10
FM R/FM TOWNS用「3.5インチ光磁気ディスク 互換媒体ドライバ V1.2」について	10
「3.5インチ光磁気ディスク 互換媒体ドライバ V1.2」の使いかた	11
FM Vシリーズ用「SCSI MO 640MB媒体対応 デバイスドライバ」について	12
「MO 640MB媒体対応 DOS/Win95用 デバイスドライバ V1.0L10」の使いかた	12
「MO 640MB媒体対応 WinNT4.0用 デバイスドライバ V1.0L10」の使いかた	13
第3章 使いかた	15
ディスクの入れかた	15
ディスクの取り出しかた	17
第4章 取り扱いについて	19
本装置の取り扱い	19
万一の故障を防ぐために	19
その他ご注意いただきたいこと	20

ディスクの取り扱い	21
取り扱い上のご注意	21
ディスクのデータを守るために	22
クリーニングについて	23
レンズのクリーニング	23
ディスクのクリーニング	23
付 録.....	24
主な仕様	24
索 引.....	25

第1章 概要

説明書の使いかた

3.5インチ光磁気ディスクユニットFMPD - 241(以下、本装置)をお使いになる前に、この取扱説明書を必ずお読みください。

お読みになったあとは、大切に保存しておいてください。

この説明書は、次の4つの章で構成されています。目的に合わせて、お読みください。

第1章 概要

本装置の概要として、特長やシステム構成、各部の名称と働きなどについて説明しています。

第2章 準備

本装置とパソコン本体や他のSCSI機器との接続のしかた、本装置のドライブ番号の設定のしかたなどについて説明しています。本装置を設置する際に、お読みください。

第3章 使いかた

本装置の電源の入れかた、ディスクの入れかた・取り出しかたについて説明しています。実際にお使いになるときに、お読みください。

第4章 取り扱いについて

本装置やディスクの取り扱い上のご注意について説明しています。また、本装置のレンズとディスクのクリーニングについても説明していますので、お使いになる前に必ずお読みください。

付 録

本装置の主な仕様について説明しています。

本装置について

特長

3.5インチ光磁気ディスクユニットFMPD - 241には、次のような特長があります。

光磁気記録方式により、何度でもデータの書き込み、消去ができます。直径3.5インチ(約90mm)の光磁気ディスクに、約640MBの大容量の情報が書き込めます(光磁気ディスクカートリッジR640またはOW640使用時)。これは、3.5インチのフロッピーディスク(2HD)の約450倍に相当します。高速なデータ書き込みを実現する光変調オーバーライト方式の光磁気ディスクをサポートしています。

インタフェースは、SCSI(Small Computer System Interface)を採用しています。高速スピンドルモータ(3600rpm)により、最大約3.9Mbyte/secの高データ転送速度を実現しています(光磁気ディスクカートリッジR540、R640またはOW540、OW640使用時)。

直進式ボイスコイルモータを使用したヘッド位置決め機構の採用により、平均シーク時間は35msecと高速です。

信頼性の高いエラー訂正機能の採用により、 10^{-12} のエラー率を実現しています。

ディスクの挿入口を二重シャッタにして密閉度を高め、塵埃に対する信頼度を向上させています。

使用できるディスク

本装置では、次の直径3.5インチのMOディスクが使用できます。

商品名	サプライ商品番号	総記憶容量	備考
光磁気ディスクカートリッジR128	0242110	128MB	
光磁気ディスクカートリッジR230	0242210	230MB	
光磁気ディスクカートリッジOW230	0242310	230MB	オーバーライト方式
光磁気ディスクカートリッジR540	0242410	538MB	
光磁気ディスクカートリッジOW540	0242510	538MB	オーバーライト方式
光磁気ディスクカートリッジR640	0242610	643MB	
光磁気ディスクカートリッジOW640	0242710	643MB	オーバーライト方式

ポイント

- ・総記憶容量は1MB = 1000²バイトで換算しています。

システム構成

本装置は、インタフェースにSCSI(Small Computer System Interface)を採用しており、SCSIバス上に複数台接続できます。

FMRシリーズおよびFMTOWNSシリーズの場合、SCSIバス上に内蔵と外付を合わせて最高5台までのSCSI機器を接続することができます。

FMVシリーズの場合、SCSIバス上に接続できるSCSI機器の台数はSCSIカードにより異なります。カードの説明書をご覧ください。

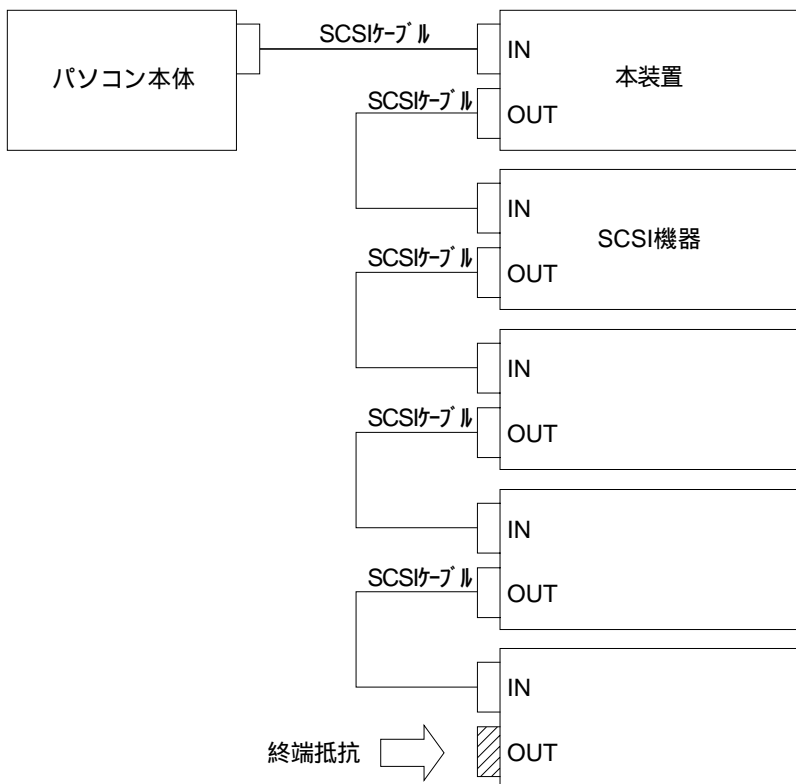


図1-1.システム構成例

各部の名称と働き

前面

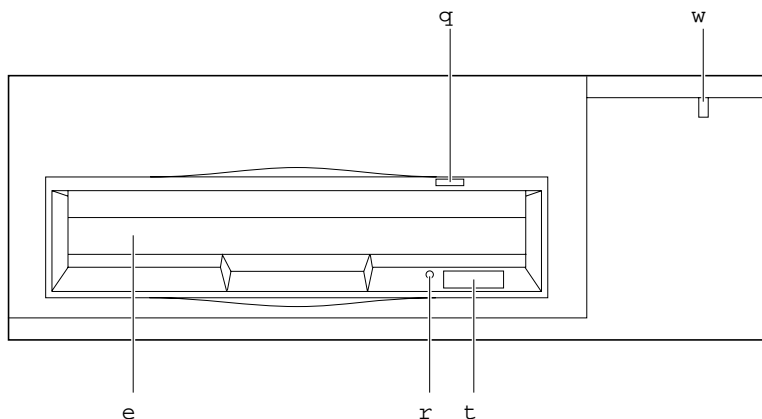


図1-2.本装置の前面

BUSY(動作中)インジケータ

ディスクのデータを読み取ったり、書き込んだりしているときに、緑色に点灯します。また、本装置内が規定温度以上になると、読み書きの動作に関係なく約2秒ごとについたり消えたりを繰り返します。

POWER(電源)インジケータ

電源を入れると、緑色に点灯します。

ディスク挿入口

ここにディスクを入れます。ディスク挿入口はほこりの侵入を防ぐために二重シャッタになっています。ディスクの入れかたは、第3章をご覧ください。

ディスク取り出し穴

万一、ディスクが通常の方法で取り出せなくなったときは、この穴に、付属の手動イジェクト治具を押し込むことにより、ディスクを取り出すことができます。詳しくは、第3章をご覧ください。

EJECT(ディスク取り出し)ボタン

本装置に入っているディスクを取り出すときに押します。

ただし、ソフトウェアでディスクのイジェクト(取り出し)が禁止されている場合は、取り出すことができません。

後面

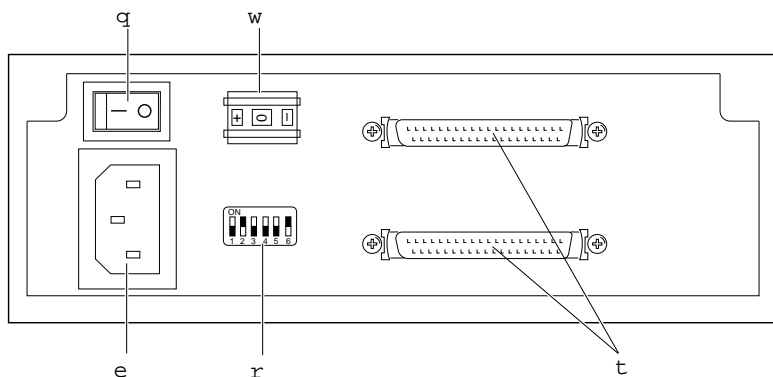


図1-3.本装置の後面

POWER(電源)スイッチ

「**-**」側を押すと電源が入り、「**○**」側を押すと電源が切れます。

SCSI IDスイッチ

ドライブ番号を設定します。

ACコネクタ

付属の電源コードを接続します。

DIPスイッチ

本装置の動作モードを設定します。詳しくは、第2章をご覧ください。

SCSIコネクタ

SCSIケーブルを使って、パソコン本体または他のSCSI機器に接続します。

第2章 準備

本装置をパソコン本体やSCSI機器に接続します。さらに、本装置のドライブ番号と動作モードを設定します。

ポイント

パソコン本体、SCSIカード、ソフトウェアの準備については、それぞれの説明書をご覧ください。

接続のしかた

- 1 本装置を接続する前に、パソコン本体および他の周辺機器の電源を切っておきます。
- 2 SCSIケーブルを接続します。
SCSIケーブルの片方をパソコン本体または他のSCSI機器のSCSIコネクタに接続します。次に、もう片方を本装置後面の2つのSCSIコネクタのいずれかに接続します。
このとき、SCSIケーブルが抜けないように、コネクタ両側のロックレバーを押さえながら、コネクタがロックされるまでしっかり差し込みます。

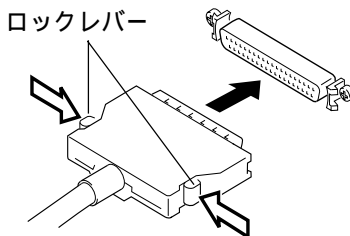


図2-1.SCSIコネクタの接続

- 3 本装置後面の残りのSCSIコネクタに、終端抵抗を取り付けるか、または他のSCSI機器からのSCSIケーブルを接続します。このときも、同じようにコネクタがロックされるまでしっかり差し込みます。
- 4 電源コードを接続します。



警告

感電



必ず電源を接続する前にアース接続をしてください。
 アース接続ができない場合は、販売店または弊社パーソナルエ
 コーセンターにご相談ください。
 アース接続しないで使用すると、万一漏電した場合に、感電・火
 災の原因となります。

電源コードのプラグをACコネクタに接続し、もう片方のプラグを電源コン
 セントに接続します。このとき、電源コードのアースリードを、コンセ
 ントのアース端子、電源設備のアース端子、またはパソコン本体のアース端
 子に接続してください。

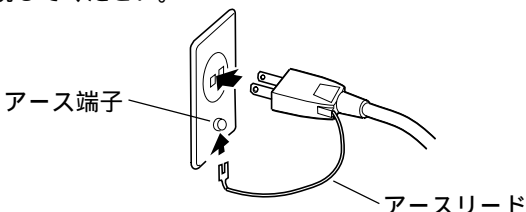


図2-2.電源コンセントへの接続

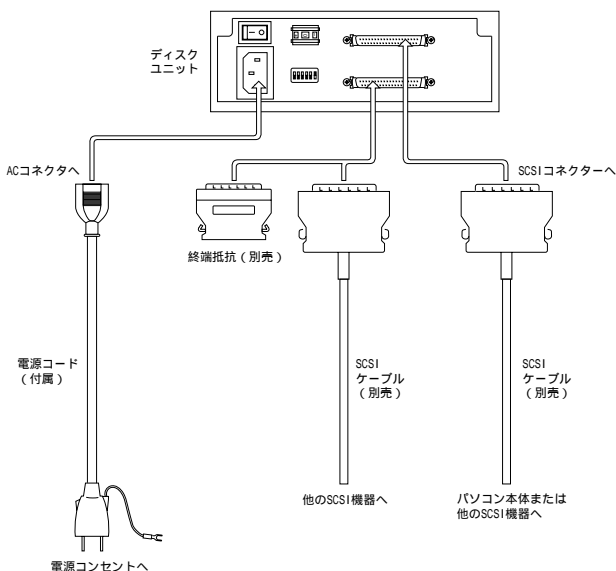


図2-3.接続のしかた





ポイント

1つのSCSIバスに接続するSCSIケーブルの合計の長さは、6m以内にす
 べてください。

ドライブ番号の設定

本装置のドライブ番号を設定します。

お買い上げ時は、「0」に設定されていますので、後面にあるSCSI IDスイッチを操作して、設定したいドライブ番号に合わせてください。SCSI IDスイッチは、を押すと設定値が大きくなり、を押すと設定値が小さくなります。設定できる値は0～6です。

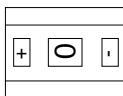


図2-4.SCSI IDスイッチ

ポイント

- ・ドライブ番号を設定する場合は、必ず本装置の電源を切ってください。
- ・ドライブ番号が正しく設定されていないと、本装置が正常に動作しません。
- ・ドライブ番号は、他のSCSI機器と重複しないように設定してください。
- ・FMRシリーズおよびFM TOWNSシリーズでは、ハードディスク/光磁気ディスクのドライブ番号として、#0～#4を確保しています。そのうち、パソコン本体に内蔵されているハードディスクが、#0に設定されていますので、本装置は#1～4の範囲で設定してください。
パソコン本体にハードディスクが内蔵されていない場合は、本装置を#0に設定することをお勧めします。
「3.5インチ光磁気ディスク互換媒体ドライバ」をお使いの場合は、#5または#6に設定してください。
- ・FMVシリーズに接続時は、#0～#6の範囲で任意に設定してください。

DIPスイッチの設定

後面のDIPスイッチ(1~6)で、本装置の動作モードを設定します。

Windows NT 3.51でディスクをスーパーフロッピー形式で使用する場合には、DIPスイッチ(2)を「ON」に設定します。

FMRシリーズおよびFM TOWNSシリーズに接続する場合には、DIPスイッチ(4)を「ON」に設定します。FMVシリーズに接続する場合には、DIPスイッチ(4)を「OFF」に設定します。

その他のDIPスイッチは、お買い上げ時の設定を変更しないでお使いください。

表2-1.DIPスイッチの設定

スイッチ	設定内容	お買い上げ時の設定
1	ONで内部の終端抵抗が有効となります。 本装置をSCSIバスの中間に接続する場合 や、外付の終端抵抗を使用する場合は、 OFFにしてご使用ください。	OFF
2	デバイスタイプを指定します。 OFF : デバイスタイプ=0 (ダイレクトアクセス装置) ON : デバイスタイプ=7 (光メモリ装置)	ON
3	Macintoshシリーズに接続する場合、ONに 設定します。	OFF
4	FMRシリーズおよびFM TOWNSシリーズに 接続する場合、ONに設定します。	OFF
5	ONでSCAMモードが有効になります。	OFF
6	常にONでご使用ください。	ON



ポイント

DIPスイッチを設定する場合は、必ずディスクユニットの電源を切ってください。

デバイスドライバについて

添付ディスクについて

本装置には、以下のドライバーズディスクが添付されています。

- (1)「3.5 インチ光磁気ディスク互換媒体ドライバ V1.2」
- (2)「SCSI MO 640MB 媒体対応デバイスドライバ」

FMR/FMTOWNS用「3.5 インチ光磁気ディスク 互換媒体ドライバ V1.2」について

「3.5 インチ光磁気ディスク互換媒体ドライバ V1.2」は、FMR/FMTOWNS用のデバイスドライバで、本ソフトウェアを使用することにより、3.5 インチ光磁気ディスクを、各社と互換をもつスーパーフロッピー形式のディスクとして取り扱うことができるようになります。

添付ドライバーズディスクは、5 インチと3.5 インチのディスクが入っていますので、お使いのフロッピーディスクドライブのタイプに合わせて、2枚の中から選択してお使いください。



ポイント

- ・本デバイスドライバでフォーマットできるMOディスクは、R128、R230、およびOW230です。R540、R640およびOW540、OW640は、フォーマットできません。
- ・FMVシリーズでお使いの場合は、本装置添付の「SCSI MO 640MB媒体対応デバイスドライバ」を使用してください。

添付ドライバーズディスクの内容

添付ドライバーズディスクには、以下のドライバソフトウェアが収められています。

- | | |
|--------------------|--------------------|
| - README.DOC | : ソフトウェア解説書 |
| - DOS¥MANUAL.DOC | : MS-DOS用操作マニュアル |
| - DOS¥35MODRV.EXE | : MS-DOS用デバイスドライバ |
| - OS2¥MANUAL.DOC | : MS OS/2用操作マニュアル |
| - OS2¥FMB035MO.SYS | : MS OS/2用デバイスドライバ |

適用システム

添付ドライバーズディスクのデバイスドライバソフトウェアを使用するには、次のどれかのシステムが必要です。

- 日本語MS-DOS V6.2(基本機能)

- 日本語MS-DOS V5.0(基本機能)
- 日本語MS OS/2 V1.21



ポイント

日本語MS-DOS V3.1およびV3.22では使用できません。

「3.5 インチ光磁気ディスク 互換媒体ドライバ V1.2」の使いかた

MS-DOSの場合

添付ドライバズディスクのDOSディレクトリ内のファイルをお使いください。プログラムのインストール方法や操作方法は、DOS¥MANUAL.DOCをご覧ください。

MS OS/2の場合

添付ドライバズディスクのOS2ディレクトリ内のファイルをお使いください。プログラムのインストール方法や操作方法は、OS2¥MANUAL.DOCをご覧ください。



ポイント

・MANUAL.DOCを見るには、システムのプロンプトが表示されている状態(OS/2ではフルスクリーンモード)で次のように入力します。

- ディスプレイに表示する場合

MORE < ¥DOS¥MANUAL.DOC

MS-DOSのときは、次のように入力してディスプレイに表示することもできます。

EDIAS ¥DOS¥MANUAL.DOC(MS-DOS V5.0のとき)

EDIT ¥DOS¥MANUAL.DOC(MS-DOS V6.2のとき)

- プリンタに出力する場合

PRINT ¥DOS¥MANUAL.DOC

FMVシリーズ用「SCSI MO 640MB 媒体対応 デバイスドライバ」について

128MB,230MB および540MBのMOディスクのセクタサイズは512バイトになっていますが、640MBのMOディスクはセクタサイズが2048バイトになっています。

このため、従来のソフトウェア(OS, デバイスドライバ)環境で640MBのMOディスクを使用する場合、いくつかの制限事項が発生します。

例えば、Windows 95で使用していて、640MBのMOディスクと、128MB ~

540MBのMOディスクとを交換すると、システムダウンすることがあります。

「SCSI MO 640MB 媒体対応デバイスドライバ」は、SCSIインタフェースMO装置をFMVシリーズで使用する場合に、これらの制限事項を緩和して、従来からの128MB、230MB および540MB のMOディスクと合わせて、新たに640MBのMOディスクを使用できるようにするものです。

「SCSI MO 640MB 媒体対応デバイスドライバ」は、以下の2枚の3.5 インチフロッピーディスクにより構成されています。

MO 640MB 媒体対応 DOS/Win95用デバイスドライバ V1.0L10

MO 640MB 媒体対応 WinNT4.0用デバイスドライバ V1.0L10



ポイント

本デバイスドライバのフォーマッタは、NSR形式でのフォーマット機能、および物理フォーマット機能を備えていますが、これらの機能を使用する場合は、以下のような注意が必要なため、なるべくご使用にならないことをおすすめします。

- ・NSR形式のフォーマットは、現在一般ユーザでの普及率が低く、NSR形式フォーマットをサポートしているパソコンシステムが少ないため、使用できる環境が制限される状況にあります。
- ・物理フォーマットを行うと、MOディスク出荷時に欠陥セクタとして登録され、使用されないようになっていたセクタが、使用可能セクタとなって使用される可能性があります。

「MO 640MB媒体対応 DOS/Win95用 デバイスドライバ V1.0L10」の使いかた

適用システム

「MO 640MB媒体対応 DOS/Win95用デバイスドライバ V1.0 L10」を使用するには次のどれかのシステムが必要です。

- ・ Microsoft Windows 95
- ・ Microsoft Windows Version V3.1
- ・ Microsoft MS-DOS /V

インストールおよび機能

「MO 640MB媒体対応 DOS/Win95用デバイスドライバ V1.0 L10」のインストール方法および機能については、本ドライバズディスク内の以下のテキストを参照してください。

- ・ Driver.txt
- ・ Readme.txt
- ・ MachMO.txt



ポイント

- ・ MOディスクをフォーマットする場合は、原則として本デバイスドライバのフォーマッタの機能を使用してください。
- ・ 本デバイスドライバは、パーティション情報(パーティション数、容量等)を表示する機能を備えておりません。
複数パーティションを持つMOディスクを使用する場合は、MOディスク使用者がパーティション情報を管理する必要があります。
また、本デバイスドライバのフォーマッタの機能を使用してフォーマットした結果は、MOディスク全体が1つのパーティションとしてフォーマットされます。
パーティション単位でフォーマットしたい場合は、マイコンピュータのフォーマット機能をご使用ください。
- ・ Windows 95環境で使用する場合、640MBのMOディスクに対して「ディスクのコピー」を指示しないでください。システムがハングします。
もし、間違えて指示してしまった場合は、システムの電源再投入を行ってください。
- ・ Windows 95環境で使用する場合、640MBのMOディスクでは、圧縮ツール「ドライブスペース」は使用できません。
- ・ Windows 95環境で使用する場合、640MBのMOディスクに対して「FDISK」を実行すると、容量表示が実際の容量の1/4になります。
- ・ Windows 95環境で、「MS-Backup」でバックアップ先ドライブとして使用する場合、複数ディスクにまたがるデータの保存はできません。

「MO 640MB媒体対応 WinNT4.0用 デバイスドライバ V1.0L10」の使いかた

適用システム

「MO 640MB媒体対応 WinNT4.0用デバイスドライバ V1.0 L10」を使用するには次のどれかのシステムが必要です。

- ・ Microsoft WindowsNT™ Workstation Version 4.0 日本語版
- ・ Microsoft WindowsNT™ Workstation Version 3.51 日本語版

インストールおよび機能

「MO 640MB媒体対応 WinNT4.0用デバイスドライバ V1.0 L10」のインストール方法および機能については、本ドライバーズディスク内の以下のテキストを参照してください。

- ・ Readme.txt
- ・ Manualjip.txt

ポイント

- ・Windows NT3.51/4.0でMOディスクをフォーマットする場合は、本デバイスドライバのフォーマットの機能を使用してください。

- ・Windows NT4.0環境で使用する場合、スーパーフロッピー形式の640MBのMOディスクに対して、マイコンピュータのドライブアイコンを右クリックして「フォーマット」を選択してフォーマットする操作はしないでください。

そのMOディスクは、Windows NT4.0では使用できなくなります。

もし、間違えてこの操作をしてしまった場合は、本デバイスドライバのフォーマットの機能を使用して再フォーマットしてください。

- ・エクスプローラでMOドライブをアクセスしておいて、本デバイスドライバのMOフォーマッタを起動してMOドライブを選択すると、「このドライブはロックできないため、排他的に使用することはできません。別のアプリケーションがドライブにアクセスしていないか確認してください」と表示される場合があります。

このような場合は、エクスプローラでのMOドライブアクセスを解除してご使用ください。

- ・本デバイスドライバのMOフォーマッタでMOドライブを選択した状態で、ファイルマネージャでMOドライブをアクセスすると、「x¥にアクセスできません。」と表示される場合があります。


このような場合は、MOフォーマッタでMOドライブを選択した状態を解除してご使用ください。

- ・Windows NT4.0で、エクスプローラでの右クリック画面で媒体取り出し指示をした場合、「リムーバブルディスク(x)をマウントするときに、エラーが発生しました。そのボリュームのファイルまたはウィンドウを開いていないか確認してください」と表示され、媒体が排出されない場合があります。

このような場合は、マイコンピュータでの右クリック画面で媒体取り出し指示をしてください。

第3章 使いかた

ディスクの入れかた

- 1 後面にあるPOWERスイッチの「」側を押します。
電源が入り、POWERインジケータが点灯します。

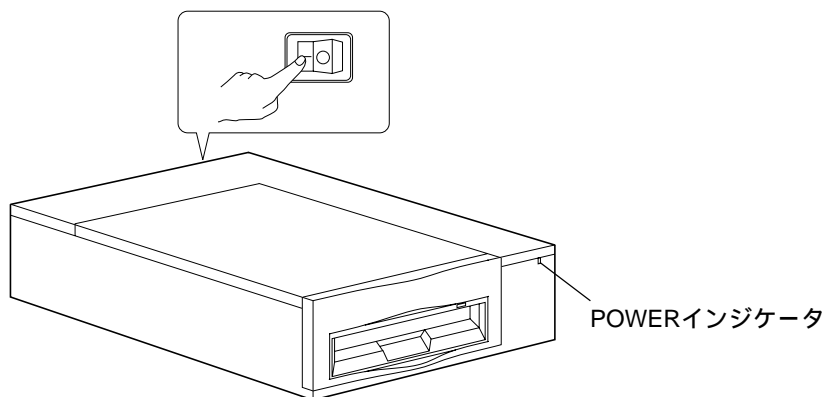


図3-1.電源の入れかた

- 2 パソコン本体を起動します。
起動のしかたは、パソコン本体に付属の説明書をご覧ください。

- 3 矢印のついた面を上にして、ディスクをディスク挿入口に差し込みます。ディスク挿入口は、ディスクが挿入されていない状態では、二重シャッタの内側のシャッタが閉じています。ディスクが挿入されると外側のシャッタが閉じて「CARTRIDGE INSIDE」の状態になります。ディスクが挿入されていない場合に、外側のシャッタが閉じて「CARTRIDGE INSIDE」の状態になってしまったときは、付属の手動イジェクト治具を使用して、外側のシャッタを開けてください。

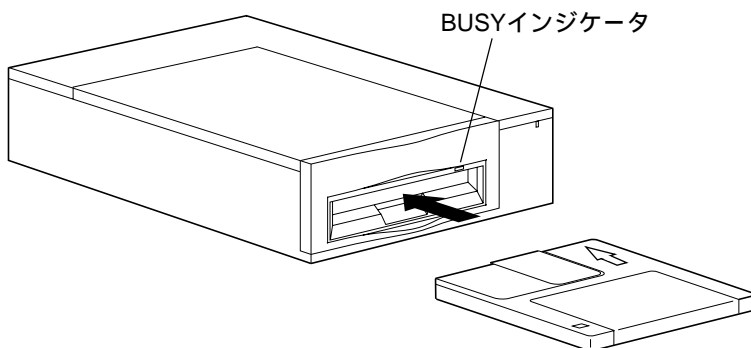



図3-2.ディスクの入れかた

- 4 パソコン上でソフトウェアを使って、ディスク上のデータを読み取ったり、書き込んだりします。
読み取り・書き込み中は、BUSYインジケータが点灯します。

 **ポイント**

本装置はパワーセーブ機能をもっており、約30分間アクセスがない場合、ディスクの回転を停止させています。

したがって、その後の最初のアクセスに対しては、ディスクの回転立ち上げ(約7秒間)のために、応答までの時間が長くなります。

ディスクの取り出しかた

EJECTボタンを押します。

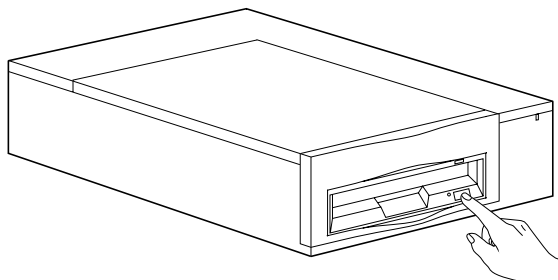


図3-3.ディスクの取り出しかた



ポイント

- ・ ディスクのデータの読み取り、書き込みによりBUSYインジケータが点灯している間(内部の温度上昇により、ついたり消えたりしている場合を除く)は、ディスクを取り出さないでください。点灯している間に取り出すと、データが正しく書き込まれなかったり、ディスクのデータが消えてしまったりすることがあります。
- ・ FMVシリーズに接続時に、本装置をSCSI BIOSの制御下で固定ディスクとして使用する場合は、パソコンの操作中はディスクを取り出さないでください。パソコンの操作中にディスクを取り出すと、データが正しく書き込まれなかったり、ディスクのデータが消えてしまったりすることがあります。

ディスクが取り出せない場合は

次のような場合は、EJECTボタンを押してもディスクが取り出せないことがあります。

ソフトウェアでディスクのイジェクトが無効に設定されているとき

本装置が故障したとき

パソコン本体にトラブルが生じたとき

停電などで本装置の電源が入らないとき

この場合は、次のようにしてディスクを取り出します。

- 1 本装置の電源を切ります。
- 2 付属の手動イジェクト治具を、ディスク取り出し穴にまっすぐに押し込みます。

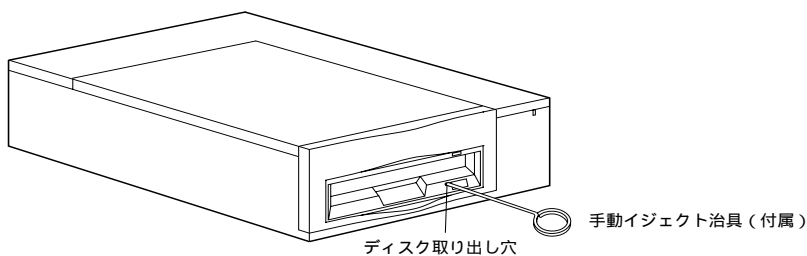


図3-4.手動イジェクト治具の使いかた

第4章 取り扱いについて

本装置の取り扱い

万 - の故障を防ぐために

衝撃・振動を与えないでください

落としたりして強い衝撃を与えると、故障することがあります。

横置きで使用してください

この本装置は横置きで使用するよう設計されています。傾けた状態や縦置きで使用すると、故障や誤動作の原因となります。

設置場所

次のような場所で、使用したり保管したりしないでください。

湿気の多い所や乾燥している所

ほこりの多い所

極度に高温や低温な所

激しい振動のある所

直射日光の当たる所

不安定な所

温度変化の激しい所

通風

本装置内部の温度上昇を防ぐため、動作中に布などで包んだり、空気の流通の悪いところに置いたりしないでください。本装置内部が高温になると、動作しなくなる場合があります。

急激な温度変化は避けてください

寒いところから暖かいところに移したり、室温を急に上げたりしたときは、本装置内部に結露が起こる場合があります。急激な温度変化があった直後は使わずに、1時間以上待ってからお使いください。結露が起きたままディスクを入れると、本装置やディスクが損傷することがあります。結露が起きている可能性があるときは、すぐにディスクを取り出してください。

ディスクを入れたまま移動しないでください

使わないときは、ディスクを必ず取り出しておいてください。ディスクを入れたまま、本装置を持ち運んだりしないでください。

また、使用中は、ディスクが高速で回転しています。このとき、本装置を

動かすと動作が不安定になったり、ディスクを傷つけたりするおそれがあります。ディスクを取り出してから、移動してください。

異常がおきたら

万一、異常や不具合が生じた場合は、電源を切って電源コードをコンセントから抜き、お買い上げの販売店または最寄りのパーソナルエコーセンターにご相談ください。

その他ご注意いただきたいこと

雑音電波について

本装置は高周波の信号を扱うため、ラジオやテレビ、オーディオチューナーなどに雑音が入ることがあります。この場合は、距離を少し離してご使用ください。

キャビネットが汚れたら

キャビネットの汚れは、乾いた柔らかい布で拭きとってください。汚れがひどいときは、うすい中性洗剤溶液を少し含ませた布でふきとり、乾いた布でからぶきしてください。アルコール・シンナー・殺虫剤など、揮発性の溶剤は使用しないでください。表面の仕上げをいためたり、表示が消えたりすることがあります。

ディスクの取り扱い

取り扱い上のご注意

日本語MS-DOS V5.0または日本語MS-DOS V6.2を使用する場合で、未使用の新しいディスクを使用するときは、必ずHDUTYコマンドの「表面検査」でディスクの検査を行ってから使用してください。

Windows95 でご使用の場合、次の2つの場合にソフトライトキャッシュが有効になっています。

本装置添付の「MO 640MB媒体対応DOS/Win95 用デバイスドライバ V1.0L10」が有効になっている場合。

MOディスクを挿入したまま、Windows95 を起動した場合。

この場合には、MOディスクに書き込み動作(コピー等)をしている時は、画面上でファイルの転送が終わってもその後しばらくの間、MOディスクにデータの書き込みが行われます。(本装置全面のBUSYインジケータが点灯しています)

この場合、BUSYインジケータが点灯している間は、本装置のイジェクトボタンを押したり、取り出しメニューをクリックしたりすることは絶対にしないでください。書き込みデータが保証されなくなることがあります。他のソフトウェアでフォーマットしたスーパーフロッピー形式のディスクには、Windows NT 4.0ではご使用できないものがあります。

(例:「3.5インチ光磁気ディスク互換媒体ドライバ」でフォーマットしたものの、およびRINGOWINや内蔵光磁気ディスクユニットの添付ユーティリティ(FJFDISKJ.EXE)やSCSIカードの添付ユーティリティ(AFDISK.EXE)でフォーマットした後にMS-DOSのFORMATコマンドでフォーマットしていないものなど)

ディスクに激しい振動を与えたり、落としたりしないでください。

ディスクは、工場出荷時に精密に調整されていますので、分解しないでください。

ディスクは、本装置に挿入すると、自動的にシャッタが開く自動装填式です。ディスクのシャッタを手で開けて、内部に触れないでください。

温度差の激しい所や湿気の多い所では使わないでください。結露が起こって、データの書き込み・読み取りができなくなる場合があります。

必要以上に、ディスクを本装置に出し入れしないでください。

使い終わったら、必ず本装置からディスクを取り出しておいてください。

また、持ち運ぶときには必ずケースに入れてください。

ディスクの保管について

ディスクは、ケースに入れて保管してください。

自動車のダッシュボードやトレーは高温になることがありますので、ディスクを絶対に放置しないでください。

次のような場所に保管しないでください。

ほこりやちりの多い所

直射日光の当たる場所

暖房器具の近く

湿気の多い所

ディスクのデータを守るために

ディスクには、ディスクのデータを誤って消したり、不要なデータを書き込んだりするのを防ぐためのDATA PROTECTスイッチ(黒いつまみ)がついています。このスイッチを矢印の方向(下)にスライドさせておくとディスクのデータを読み出すことはできますが、書き込むことができなくなります。スイッチを元に戻すと、再び書き込むことができるようになります。

書き込む必要のないディスクは、スイッチを矢印方向にスライドさせておいてください。

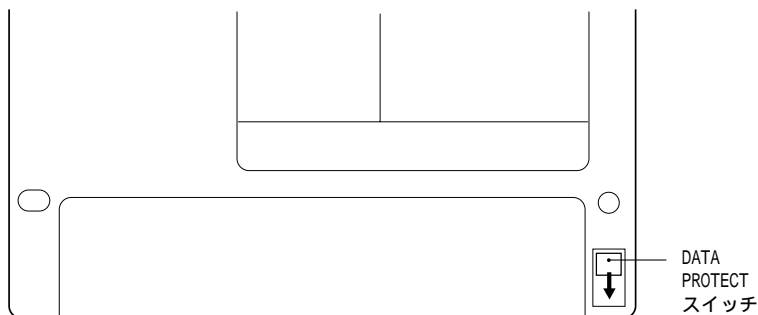


図4-1.DATA PROTECTスイッチ

クリーニングについて



ポイント

レンズおよびディスクのクリーニングを定期的に行ってください。データを正常に読み書きできなくなることがあります。

レンズのクリーニング

本装置は、データを書き込んだり、読み取ったりするために、光学レンズを使用しています。レンズがほこりやごみなどで汚れていると、正常なデータの書き込み・読み取りができない場合があります。このようなことを防ぐために、ヘッドクリーナで定期的にクリーニングを行う必要があります。本装置の性能を維持するために、3ヵ月に1度はクリーニングを行ってください。

使用できるヘッドクリーナ

光磁気ディスククリーニングカートリッジ(サプライ商品番号 : 0240470) (別売) をお使いください。クリーニングのしかたは、クリーニングカートリッジの使用説明をご覧ください。

ディスクのクリーニング

ディスクを長い間使用すると、ディスク上にほこりや汚れが付着し、データを正常に読み書きできなくなる場合があります。このようなことを防ぐために、ディスククリーニングキットでクリーニングを行う必要があります。ディスクの性能を維持するために、3ヵ月に一度はクリーニングを行ってください。

使用できるクリーニングキット

光ディスククリーニングキット(サプライ商品番号 : 0632440) (別売) をお使いください。クリーニングのしかたは、クリーニングキットに付属の使用説明書をご覧ください。

主な仕様

性能

総記憶容量(ユーザ領域)(注)	128Mbytes (127Mbytes) 230Mbytes (228Mbytes) 538Mbytes (533Mbytes) 643Mbytes (635Mbytes)
回転数	3600rpm
平均回転待ち時間	8.3msec
平均シーク時間(回転待ち、SCSIオーバーヘッドを含みません)	35msec
データ転送速度	3.87Mbytes/sec(最大, 640MBディスク時)
連続ライト(実効)	0.61 ~ 1.02Mbytes/sec(640MBディスク時)
連続リード(実効)	1.84 ~ 3.07Mbytes/sec(640MBディスク時)
ロード時間	7.0sec(平均)
アンロード時間	4.0sec(平均)
ホストインタフェース	SCSI(Small Computer System Interface)2

(注)フォーマット時の容量を1Mbyte=1000²バイトで換算

環境条件

設置方向	水平(横置き)($\pm 10^\circ$ 以内)
温度 動作時	5 $^\circ$ C ~ 35 $^\circ$ C (温度勾配15 $^\circ$ C/時)
非動作時	0 $^\circ$ C ~ 50 $^\circ$ C
湿度 動作時	10% ~ 85%(結露のないこと)
非動作時	10% ~ 85%(結露のないこと)
振動 動作時	0.2G以下
非動作時	1G以下
衝撃 動作時	2G以下(10msec half sine波)

電源・その他

電源	AC100V、50/60Hz
消費電力	25W
最大外形寸法	166 × 60 × 248 mm
(突起部を含まず)	(幅 × 高さ × 奥行き)
重量	2.0kg

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

索引

英字

CARTRIDGE INSIDE	16
DATA PROTECTスイッチ	22
HDUTY	21
MANUAL.DOC	10, 11
SCAM	9
SCSI	3

ア

アース端子	7
アースリード	7
イジェクト	4, 17
オーバライト方式	2

カ

クリーニングカートリッジ	23
クリーニングキット	23

サ

終端抵抗	3, 6, 9
手動イジェクト治具	4, 16, 18
スーパーフロッピー形式	9, 10, 21
総記憶容量	2, 24

タ

ダイレクトアクセス装置	9
ディスク	2, 21
ディスクユニット	1, 2
デバイスタイプ	9
デバイスドライバソフトウェア	11
ドライバーズディスク	10, 11
ドライブ番号	8

ハ

パワーセーブ機能	16
光メモリ装置	9
表面検査	21
ヘッドクリーナー	23

FMシリーズ
3.5インチ光磁気ディスクユニット (FMPD-241)
取扱説明書
B1FY-3231-01-00

発行日 1998年3月
発行責任 富士通株式会社
Printed in Japan

本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の
権利の侵害については、当社はその責を負いません。
無断転載を禁じます。
落丁、乱丁本はお取り替えいたします。